

科学技術と現代社会

第12回

核兵器と原発

田中 浩朗
(東京電機大学)

隠れ蓑としての原子力「平和」利用

- 原子力の「平和」利用という言葉・イメージは、軍事利用に対する恐怖・不安を覆い隠す。
 - ◆ アメリカの原子力平和利用キャンペーンによる、反核・反米運動つぶし
 - ◆ 原子力「平和」利用の名の下に、核開発能力を向上（技術，原料） → イランの例。日本も？

ビデオ

- 現代史スクープ
「原発導入のシナリオ
～冷戦下の対日原子力戦略～」
(NHK総合, 1994.3.16)
- ◆ Atoms for Peace (原子力の平和利用)

Atoms for Peace (1)

- 1953.12 米アイゼンハワー大統領
国連総会演説「Atoms for Peace」
(平和のための原子＝原子力の平和利用)
 - ◆ 世界各国で原子力の平和利用を推進
 - ◆ 米国は必要な援助(技術, 核物質)を提供
 - ◆ 国際機関(のちの国際原子力機関IAEA)を設立

Atoms for Peace (2)

- 「Atoms for Peace」演説の背景
 - ◆ ソ連の勢力拡大: 核兵器(水爆)でも「平和」利用(原発)でも, アメリカの優位を保てなくなってきた
 - ◆ 原子力のイメージ悪化: 米ソ核軍拡競争や水爆実験などに対する世界の人びとの批判の高まり
 - ◆ 米原子力産業の海外進出の要求

対日心理戦(情報戦)

- 1954.3 第五福竜丸事件(ビキニ水爆)
- 1954.5 水爆禁止署名運動杉並協議会
→原水爆禁止運動の高まり。3000万署名
=反米運動・・・共産主義者の平和攻勢
- 米情報機関:反核・反米運動を鎮める工作
→原子力の平和利用を宣伝して,
原子力と米国のイメージアップをねらう

ビデオ

- 現代史スクープ
「原発導入のシナリオ
～冷戦下の対日原子力戦略～」
(NHK総合, 1994.3.16)
- ◆ ビキニ事件
- ◆ アメリカ情報機関の工作
 - 正力松太郎(読売新聞社社主, 日本テレビ社長)
 - 柴田秀利(正力の部下): CIA工作員と接触

ビデオ

- 現代史スクープ
「原発導入のシナリオ
～冷戦下の対日原子力戦略～」
(NHK総合, 1994.3.16)
- ◆ 原子力平和利用キャンペーン

ビデオ

- NHKスペシャル
「“核”を求めた日本
～被爆国の知られざる真実」
(2010.10.3, NHK総合)
- ◆ NPT加盟前の西ドイツとの秘密協議
- ◆ 日本の核武装研究
- ◆ アメリカの「核の傘」
- ◆ 非核三原則

日本の核武装研究

- 中国の核実験(1964年)を受け, 1960年代の佐藤栄作政権が, 日本の核武装の可能性を研究
- 核武装しない代わりに, 米に「核の傘」を要求
- その後で, 「非核三原則」を国是とする(1968年)
- NPT加盟前に, 西ドイツと秘密協議(1969年)
- 1974年に佐藤栄作, ノーベル平和賞受賞

西ドイツとの秘密協議(1969年)

- **日本側外交官の発言** (元西ドイツ外交官による):

「日本は憲法9条の下, 戦力を持たないことになっているため, 日本の原子力の平和利用に関する研究とロケット技術の開発に誰も異を唱えられない。その結果, いつか必要になれば原子力とロケットを結びつけられる。比較的早く核兵器をつくることができる」。

第12回課題

1. 第12回授業の簡単なまとめと感想など
2. 次回のグループディスカッションで「核抑止論」をめぐって議論するための準備として、「核抑止論」に対する自分の考えと、その根拠を簡潔にまとめる。